公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2017年3月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会⑤）・・・1
◆諏訪支部からの情報 ・・・・・・・・・・12
「落鳥の命を教材に活かす！ 前編」
◆遠江からの情報・・・・・・・・・・・・・13
「春の入会キャンペーン」
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・14
（2017年1月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・16
・2016年度　探鳥会リーダーズフォーラム西日本報告書（概要版）
・ツバメの子育て観察会をしませんか
・新小冊子『バードウォッチング BOOK』を発行します
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読数・・・・・・・・・・・・・・22
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・23
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・23

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会⑤）

今月号では1月28日～2月11日までに5か所で開催された「会員を増やすための探鳥会」（表1）の様子についてご報告いたします。

表1.

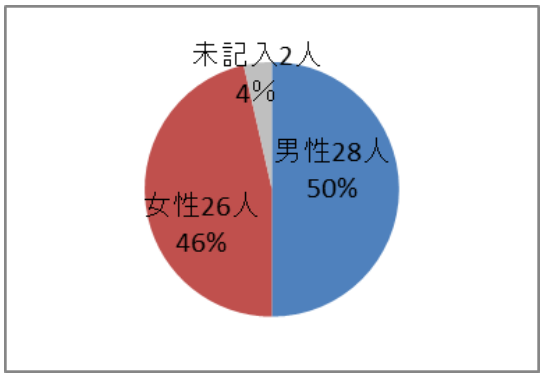
	開催日	支部名	開催場所
No21	2017/1/28（土）	栃木	井頭公園
No22	2017/1/29（日）	茨城県	かすみがうら市雪入ふれあいの里公園
No23		大阪支部	産湯稲荷神社（真田抜穴跡）～天王寺公園（茶臼山）
No24	2017/2/5（日）	和歌山県支部	和歌山城公園
No25	2017/2/11（土・祝）	栃木	小山運動公園
No26		神奈川支部	山下公園

※No24 和歌山県支部の探鳥会は雨天により中止となりました。

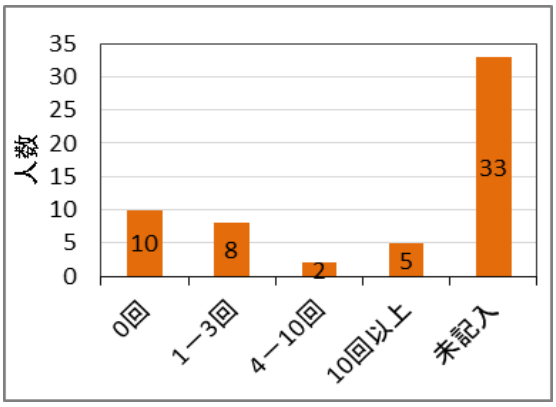
真岡・井頭公園ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2017 年 1 月 28 日（土）9 時 00 分～11 時 30 分
【天候】晴れ
【場所】井頭公園（栃木県真岡市）
【参加人数】58 名（うち一般参加者 51 名）
【リーダー】9 名
【お試し入会】2 名（一般参加者のうち約 4%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 関東、福島、静岡、山梨 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）

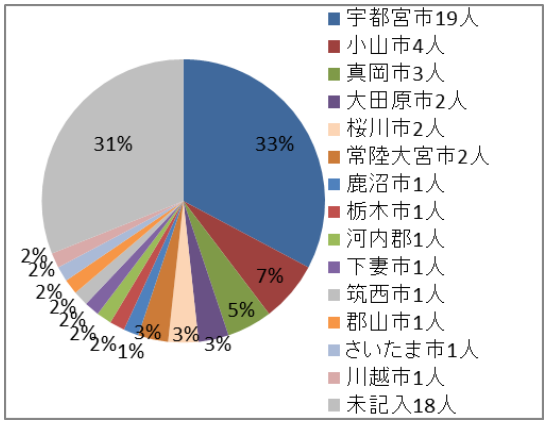
【性別】



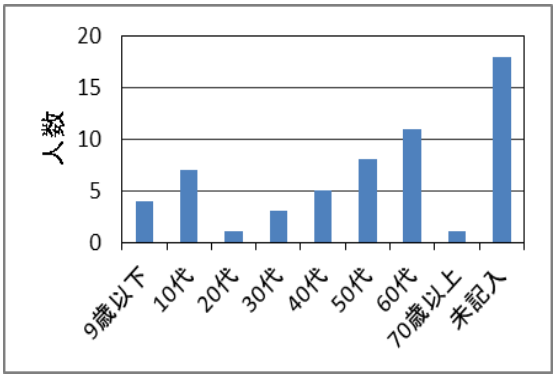
【バードウォッチングの経験回数】



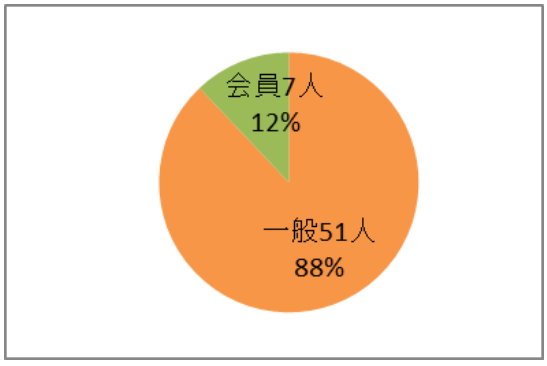
【お住まい】



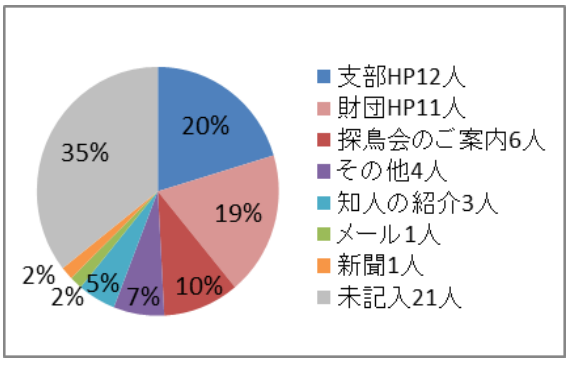
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■様子、感じたことなど

・受付終了間際に参加者が集中したため受付が混み合った。そのため資料の配布や質問への対応がやや疎かになった。受付スタッフの増員が必要。
・2 班に分かれて探鳥を行った。カモを中心に林の鳥も見られるコースを選んだが、時間が足りず予定を 30 分ほどオーバーしてしまった。
・時間短縮のために今後のビギナー探鳥会では、池のカモを集中的に見て、林の探鳥は月例の探鳥会に来てもらうよう案内するとよい。
・参加者は概ね満足した様子であった。
・鳥インフルエンザの対応として、終了時に足裏等の消毒を行った。説明に対して質問等はなく皆さんご理解いただいた様子であった。

▲池でカモを観察する様子

▲紙芝居を使ってカモを説明する様子

■参加者の声

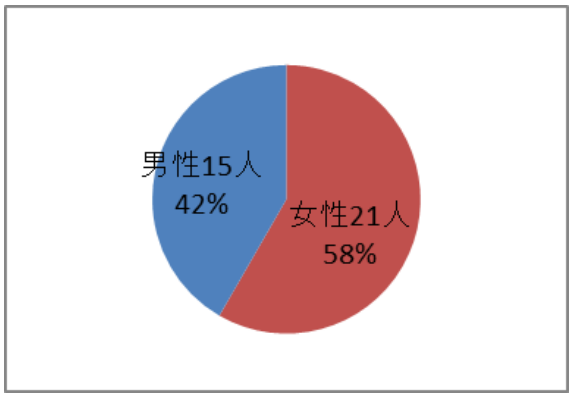
・こんなにカモに種類があったなんて知らなかった。（女性）
・（望遠鏡を覗いて）わぁすごーくよく見える！（カモの頭）フワフワー！（女性）
・キツツキって山じゃなくても見られるのね。（女性）
・鳥の探し方に慣れてきて頃に終わっちゃうのが残念。（女性）（男性）
・双眼鏡を貸し出してもらえて助かった。いつもの探鳥会でも貸し出してもらいたい。（男性）
・東側にいくつか駐車場があるため、集合場所が分かりにくかった。（男性）

（日本野鳥の会栃木／岩渕真由美・川田裕美、撮影：長野大輔）

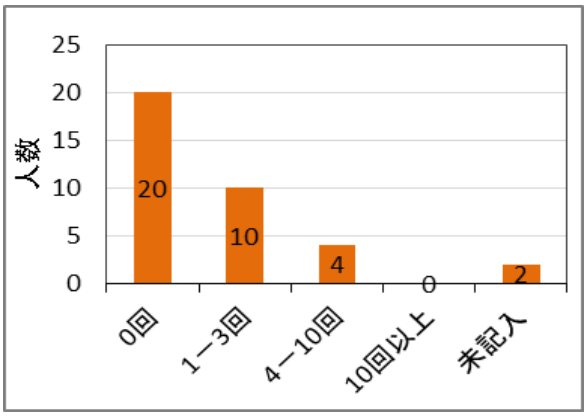
雪入ふれあいの里公園ビギナーズ探鳥会　（茨城県）

【日時】2017 年 1 月 29 日（日）9 時 00 分～11 時 20 分
【天候】曇り
【場所】雪入ふれあいの里公園（茨城県かすみがうら市）
【参加人数】36 名（うち一般参加者 35 名）
【リーダー】5 名
【お試し入会】2 名（一般参加者のうち約 6%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 関東、福島、静岡、山梨 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）
　＜新聞＞産経新聞（1/22）、よみうりタウンニュース（掲載日不明）、茨城新聞（掲載日不明）

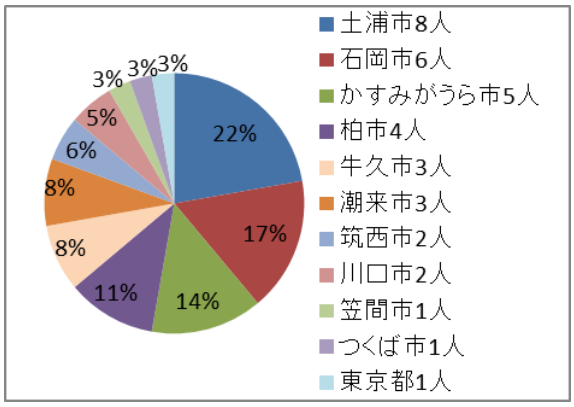
【性別】



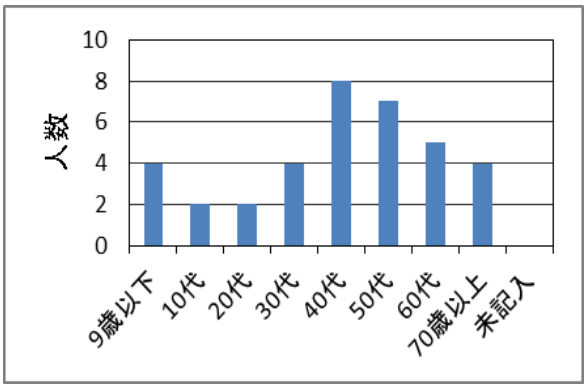
【バードウォッチングの経験回数】



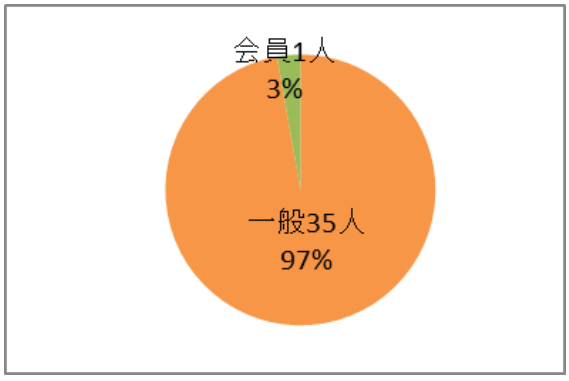
【お住まい】



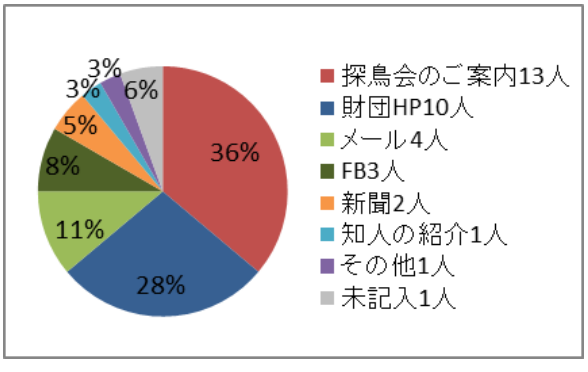
【年齢】



【会員/一般】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

日本野鳥の会主催のビギナーズ探鳥会としては、当公園で初の開催でしたが、当公園主催の探鳥会を大きく上回る参加者があり、反響の大きさに驚きました。人数が多かったため、１班８人前後のグループ４つに分かれ、各班にリーダーがついて園内を案内しました。

当日は、曇りでやや風のある、探鳥会としてはまずまずのコンディションでしたが、観察できた野鳥は 21 種類とやや少なめでした。班別行動ですので、班によって見られたり見られなかったりした鳥はあったものの、今回は冬鳥のウソやジョウビタキといった小鳥、池に憩うマガモやコガモが比較的じっくりと観察できたこと、少人数で各リーダーの説明がよく行き渡ったこと、などで参加者の満足度は高かったようです。初心者向けですので、数が多く出ればいいというものでもなく、冬らしい野鳥やその行動をいかにじっくりと観察できたか、リーダーの丁寧でわかりやすく、楽しい説明によるアットホームな班の雰囲気作りがとても大切な要素であることを再認識しました（参加者にとってはリーダーは雲の上の存在みたいに見えるので、専門家の案内ではなくて、いっしょに探鳥を楽しむ仲間といった並列意識がとても大切なのではないかと思います）。

当公園主催の探鳥会に参加したいという人も現れたので、こちらにとってもたいへんメリットのあるイベントになりました。

▲鳥合わせの様子

■鳥あわせの結果

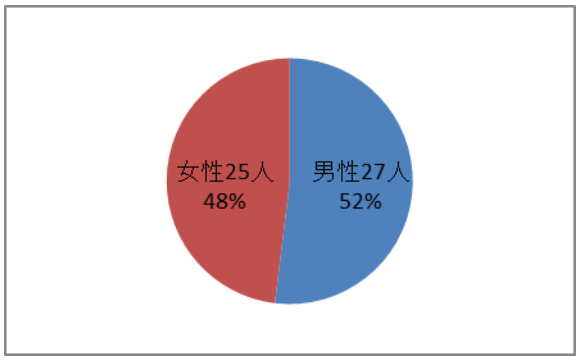
マガモ、コガモ、キジバト、トビ、コゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ウソ、アオジ、ミヤマホオジロ、マヒワ、コジュケイの計 21 種類

（雪入ふれあいの里公園所長・
日本野鳥の会茨城県／川崎慎二）

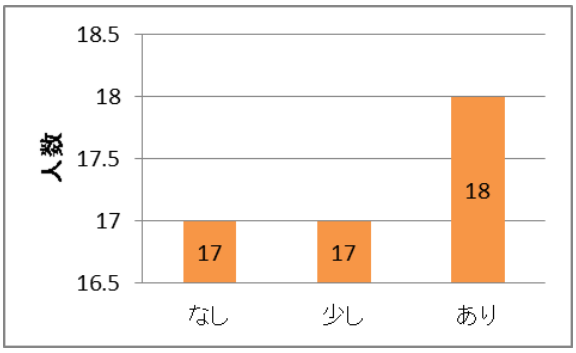
はじめての鳥見たい(隊)！　歴史散策と野鳥（３）
産湯稲荷神社（真田抜穴跡）～天王寺公園（茶臼山）　（大阪支部）

【日時】2017 年 1 月 29 日（日）9 時 00 分～12 時 00 分
【天候】雲り
【場所】産湯稲荷神社（真田抜穴跡）～天王寺公園（茶臼山）（大阪府大阪市）
【参加人数】52 名（うち一般参加者 47 名）
【リーダー】14 名
【お試し入会】0 名
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）

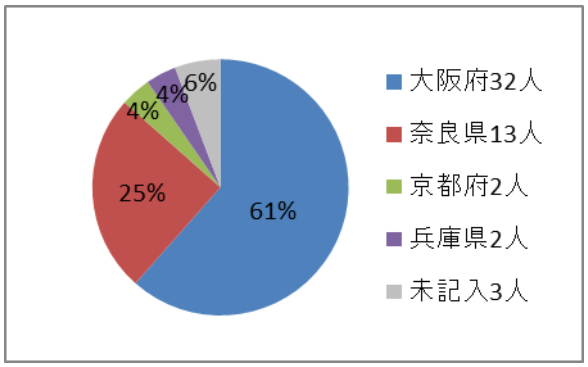
【性別】



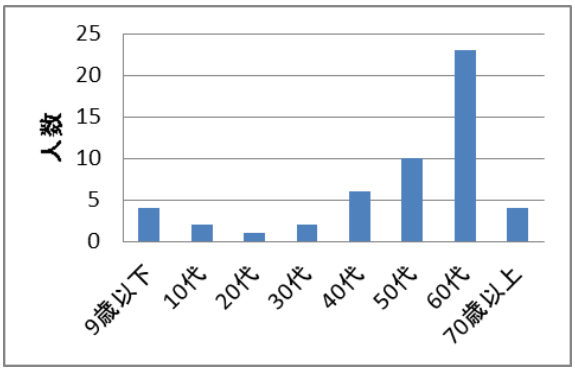
【バードウォッチングの経験回数】



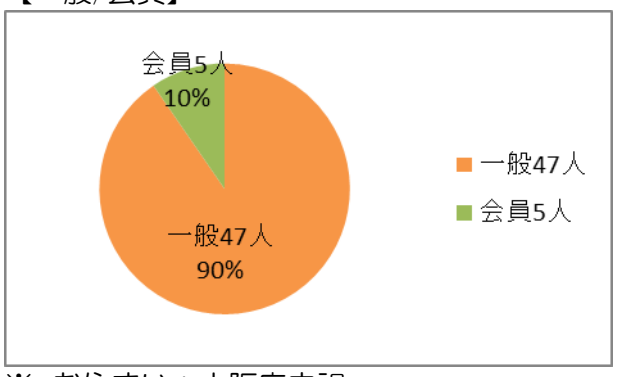
【お住まい】



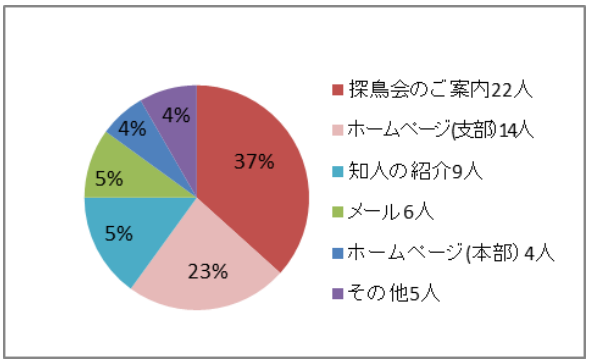
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



※　お住まい：大阪府内訳
大阪市９人、吹田市６人、堺市５人、東大阪市３人、池田市２人、泉南市２人、豊中市２人、寝屋川市１人、富田林市１人、岸和田市１人

■探鳥会概要

大阪の中心、中央区～天王寺区界隈は戦国～江戸期の遺構が多く残る土地で、昨年話題だった武将・真田幸村に縁の場所も点在しています。現在ではそれらの多くが寺社の森や公園となっており、都会に残された自然として野鳥たちの貴重な生息環境となっています。

今回の探鳥会は、都市の中に息づく野鳥の姿を追いながら、戦国の武将たちの熱い生き様へも思いを馳せる魅力的な内容で、支部や財団のホームページ等での参加者募集開始早々に定員枠が満席になる好評ぶりでした。

約 5km の道のりを３時間かけて歩きました。

■探鳥会の様子

地下鉄の駅を降り、集合場所を目指して地下通路を歩きます。ここでいいのかな？と心細く思った矢先に、望遠鏡を持った道案内スタッフの姿が目に入りました。明るい笑顔と明解な案内に不安が一気に吹き飛びました。

うす曇りの穏やかな天候の中、最寄り駅に直結するショッピングモール隣接の集合場所の広場ではテキパキと受付が進められました。総勢 70 名近い大きな集団のため、ここでは受付と最小限の行程説明にとどめ、はぐれないように注意しながら最初の観察場所である小橋公園まで参加者を誘導しました。

街の喧騒から一歩離れた公園ではリーダーの声が参加者全員によく届きます。今日の見どころや詳細な行程、住宅街での観察マナーの説明に続き、参加者を属性で５つの班（①10 名のグループ、②子供連れファミリー、③夫婦・友人等のペア、④単独参加で探鳥経験なし、⑤単独参加で探鳥経験数回あり）に分けました。各班およそ 10 名程度になり、手厚い案内が必要と思われる①②④班は各３名、③⑤班は各２名のリーダーが担当して、以降は班ごとの行動になりました。

メインリーダーは班を担当せずに、道路移動中の安全管理や全体の動きに目を配っておられました。街中での大人数の観察会では、このように行程全体に気を配るスタッフの存在が非常に大切だな、と感じました。

今回の探鳥コースは、マンションやオフィスビルが立ち並び、道路が縦横に走る街の真っただ中です。それでも、ジョウビタキ、ツグミ、カワラヒワ、ハクセキレイといった小鳥たちに次々と出会うことができました。

リーダーがマンションの植栽の中にメジロを見つけて参加者に観察を促すと
「えっ、これはスズメではないの？」
「うちの庭の木にも来ている鳥かな？」
と興味が広がっていました。

歴史探訪スポットでは解説板や地図を使ってリーダーが興味深い戦国の逸話を披露してくれます。無味乾燥に見えて普段は見過ごしてしまう解説板に、実は当時の人々の暮らしや奇想天外な伝説が生き生きと描かれていることに参加者は感心しきりでした。

▲ビルの谷間の公園で観察

■参加者の声

60 代男性：10 月の狭山池での観察会に続いて参加しました。歴史にも興味があるのでこのような企画は嬉しいです。

40 代男性：こんな都会の中にたくさん鳥がいることに驚きました。自宅の周りにいる鳥も観察してみようと思います。

■まとめ

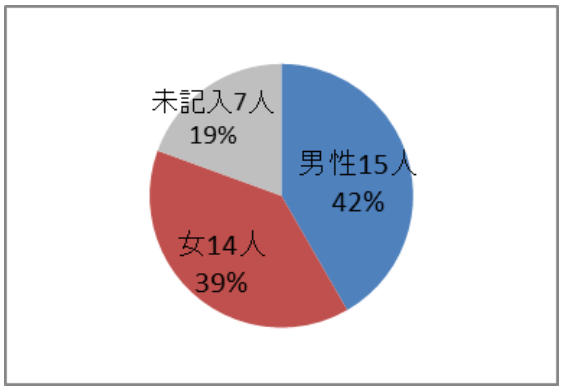
天王寺公園内河底湖が改修工事中のため、カモ類など水鳥の出現が少なかったことが残念でしたが、都会のわずかな自然をよりどころに逞しく生きる野鳥との出会いは参加者に強い印象を残したようです。また、野鳥プラスαのテーマ設定で探鳥会にぐんと奥行きがでることを実感することができました。参加者の特性を予め把握し班分けやスタッフ配置に活かすなど、事前申し込み制を効果的に活用された探鳥会運営が素晴らしかったです。

（普及室／浅野綾子）

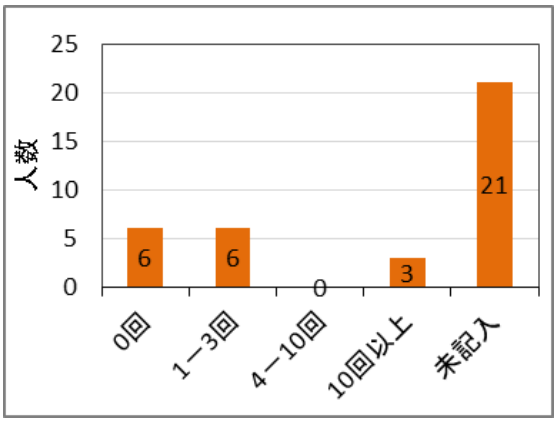
小山・運動公園ビギナー探鳥会　（栃木）

【日時】2017 年 2 月 11 日（土・祝）9 時 00 分～11 時 15 分
【天候】晴れ
【場所】小山運動公園（栃木県小山市）
【参加人数】36 名（うち一般参加者 31 名）
【リーダー】10 名
【お試し入会】2 名（一般参加者のうち 6%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、支部 HP
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 関東、福島、静岡、山梨 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）

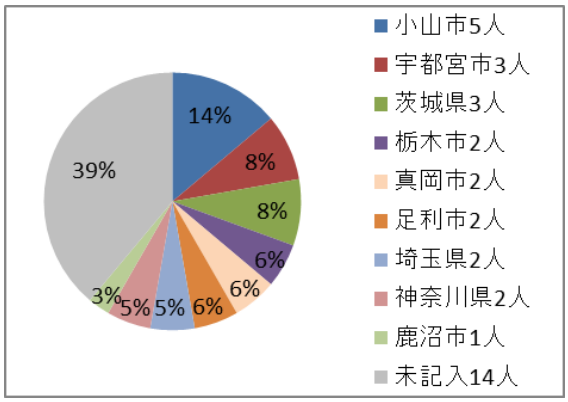
【性別】



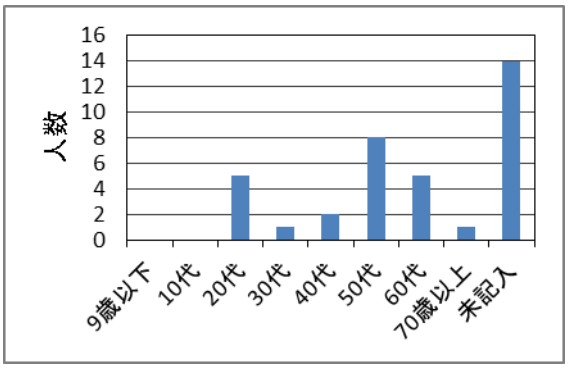
【バードウォッチングの経験回数】



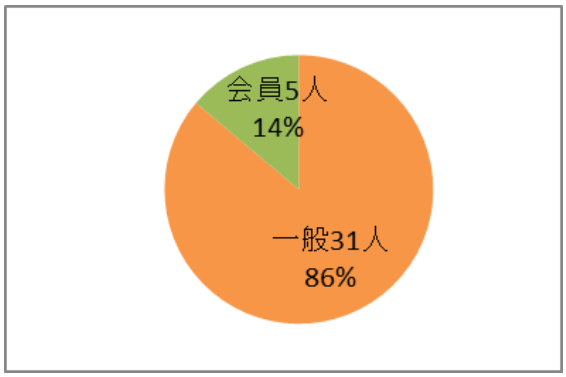
【お住まい】



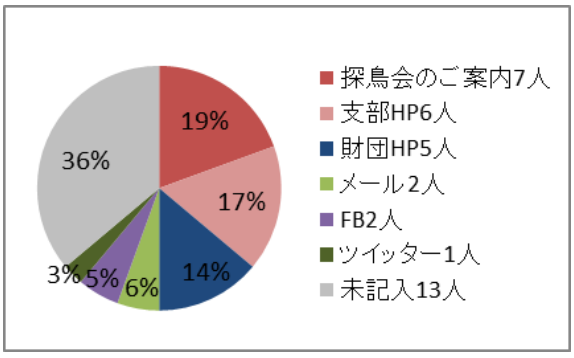
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

小山運動公園は、陸上競技場や野球場がメインの施設ですが、周囲を雑木林に囲まれ、園内にはあちこちに木立があり、池もあります。園路も広く、集団でゆっくりと歩きながら野鳥を観察するのに適したフィールドです。参加者を２グループ分け、ひとつのコースをそれぞれ反対周りに歩いて、林や池の野鳥を１時間半ほど観察し、最後に約 30 分の鳥あわせとまとめをしました。

■探鳥会の様子

リーダーは開始１時間前に集合。事前に用意された資料をもとに流れやコースの確認をしていました。開始 30 分前に受付開始。参加費の徴収や名簿の記入等の後、双眼鏡を初めて使う方には個別に使い方を説明していました。

開始時刻になると、全体に対してスタッフ紹介や注意事項の説明などをした後、参加者を２つにわけました。グループに分かれた後、お試し入会の案内などがあり、観察がスタートしました。

私が参加したグループでは、歩きはじめるとすぐ、園路沿いの木立でコゲラが見つかりました。コゲラの場所をリーダーが伝えると、リーダーのスコープだけでなく、参加者自身の双眼鏡でも観察。事前に使い方の説明がされていたので、参加者のみなさんは、双眼鏡を使って思い思いに観察ができました。

池につくと、はじめに、野鳥紙芝居（イラストカード）を取り出し、池で見られるカモを３種ほど説明してから観察の時間に。池には、ヒドリガモやオカヨシガモの他にも、コガモやカルガモ、バンやオオバンなどが見られました。リーダーが 2-3m ほど間隔をおいてスコープを構え、「ヒドリガモが見えますよ」「お尻のところが黒いのがオカヨシガモです」などと、参加者に声をかけると、自然と参加者がスコープの周りに集まります。集まった方に対し、リーダーが図鑑を使って模様や習性などの解説していました。１グループ 15 名ほどにリーダーが５名という構成でしたので、説明もよく行き渡り、会話もはずんでいました。定点で 30 分程の時間を過ごしても、間延びすることはありませんでした。

池の鳥を一通り観察したあと、空にノスリが現れました。最初は遠くに小さく見えたノスリが、だんだん近づいてきて、頭上を通過し、視界から見えなくなるまで観察をしました。多くの方が空を見あげノスリに注目する中、池の鳥についてリーダーに質問をする参加者がいました。その方に対しては無理にノスリを見せようとはせず、リーダーはカモの質問に丁寧に答えていました。参加者それぞれの興味にあわせて対応する姿勢も大切と感じました。

観察の後には、各グループで鳥あわせ。野鳥紙芝居を使って、一種一種解説をしていきます。33 種の鳥が見られました。最後に、リーダーからあらためてお試し入会の案内をし、グループ毎に解散となりました。

▲イラストで説明をしながら観察

■参加者の声

30 代男性：一人で鳥を見に行くのですが、見つけられないし、名前もわかりません。ここに来れば、教えてもらえると思って参加しました。今日はいろいろな鳥がみられてよかったです。

50 代女性：自宅の近くでもカモをよく見ますが、今日あらためてよく見ることができ、いろいろなカモがいることが分かりました。オカヨシガモ、初めて見ました！

■まとめ

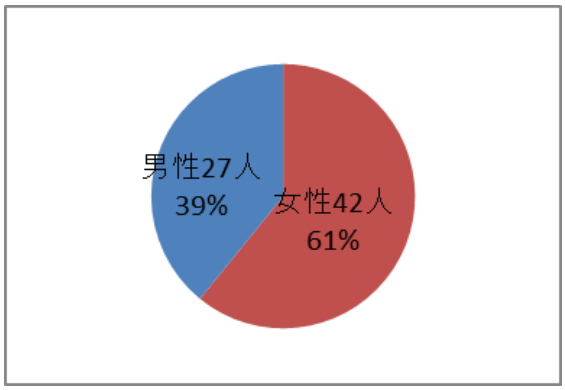
場所によっては寒さが気になる場面もありましたが、全体的に和やかで鳥もしっかり観察できた探鳥会でした。参加者の中には、以前のビギナー探鳥会に参加し「今日は入会するつもりできました」という方もおられました。１回の参加では入会に結びつかなくても、２回３回と探鳥会への参加を重ねる間に入会の意思が固まっていく場合もあるので、継続的な取り組みが必要だと感じました。

（普及室／江面康子）

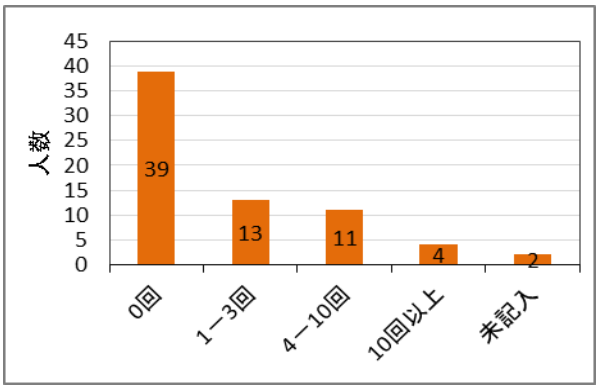
寒い冬でもおしゃれな鳥を見つけましょう！in 山下公園　（神奈川支部）

【日時】2017 年 2 月 11 日（土・祝）
　　1 回目：9 時 15 分～10 時 30 分、2 回目：10 時 45 分～12 時 00 分
【天候】晴れ
【場所】山下公園（神奈川県横浜市）
【参加人数】1 回目、2 回目合計 69 名（うち一般参加者 66 名）
【リーダー】7 名
【お試し入会】12 名（一般参加者のうち 18%）
【広報】
　＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook
　＜メール＞一斉メール送信（1/11、12 関東、福島、静岡、山梨 22,886 名に送信）
　＜チラシ＞探鳥会のご案内（11/20 から全国約 55,000 名に送付）

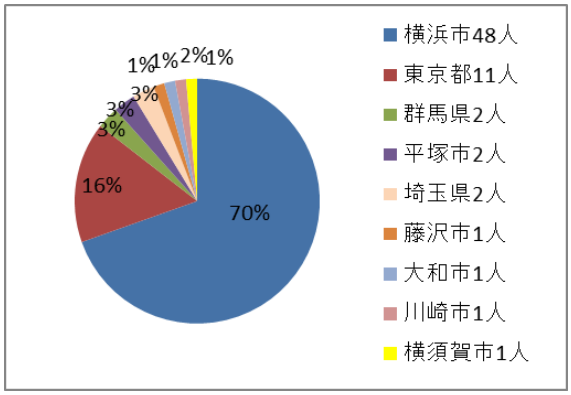
【性別】



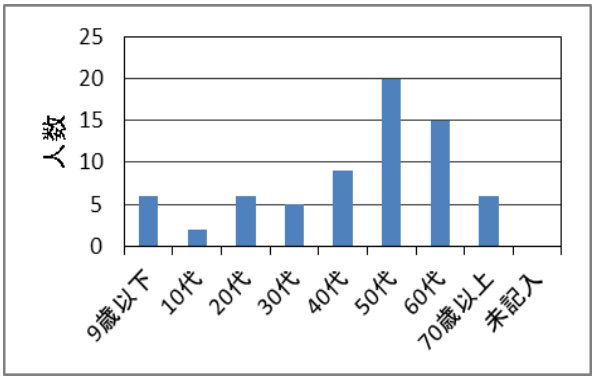
【バードウォッチングの経験回数】



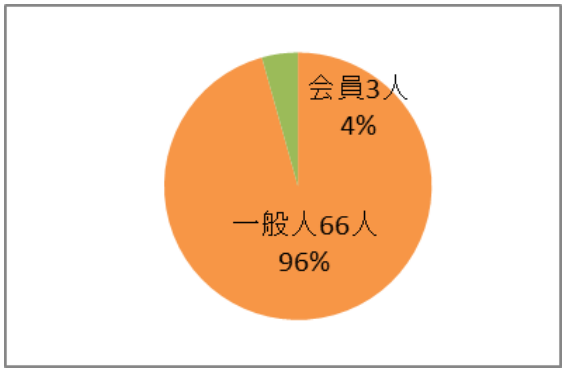
【お住まい】



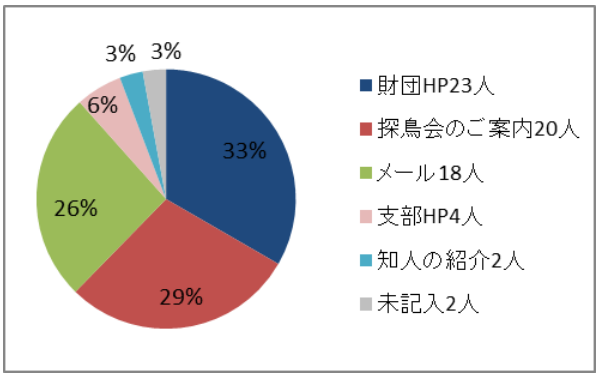
【年齢構成】



【一般/会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

1/21 に続き、神奈川支部２回目の会員を増やすための探鳥会です。開催場所は、横浜を代表する観光スポットの山下公園。午前中に２回、各回 1 時間のバードウォッチングが企画されました。

参加者は２回とも約 35 名集まり、2 班に分かれて、海の鳥、陸の鳥を交代で観察しました。

■探鳥会の様子

この日は良く晴れ、風もなく絶好の探鳥会日和でした。集合場所の「山下公園 赤い靴を履いてた女の子像前」では、実際に赤い靴を履いたリーダーが明るい笑顔で参加者を待っています。

宣伝用にと持ってこられた三脚には、支部の旗を結び、当日参加を呼び込むための案内チラシを貼っています。また定例探鳥会情報と HP の QR コードを載せた模造紙を貼りだし、次に繋げる工夫もしていました。

１回目は９時 15 分開始。お手製の紙芝居を使い、約５分で始めの挨拶をされました。

「野鳥の会は、昔、紅白でおこなったようにカウントをしているだけではなく」
と笑いを誘いながら、
「多様な生きものが一緒に暮らせるようにと願い活動している団体です。野鳥を見ることで、自然のこと、環境のことが分かってきます。これからご一緒に体験しましょう。」
と会の説明をし、お試し会員を募集していることも話されていました。

▲紙芝居を使った説明

各班には２名のリーダーがつき、観察を始めました。芝生の花壇には、スズメの群れがいます。

「顔の模様をよく見てください。頬に黒い点がありますね。」
「何をしているのか観察するのも面白いですよ。芝生の種や、スズメノカタビラという草の種を食べています。」
とリーダーが注目するポイントや観察の楽しさを伝えていきます。続いて、芝生で休むドバトや木にとまったムクドリ、イソヒヨドリなどを観察しました。

30 分程観察し、海へ向かいました。係留された船の鎖にはユリカモメが並んでいます。

「4 月から羽が抜け替わり、5 月の始めには頭が黒くなってきます。」
との説明には、
「顔が変わるなんて！」
と驚きの声があがっていました。

続いてスズガモを観察。リーダーの説明のもと、貝を採りに透き通った海へ潜っていく様子が良く観察できました。

最後は集合場所に戻り、簡単な鳥合わせとお試し会員の募集があり、終了となりました。

■参加者の声

30 代女性：バードウォッチングが好きですが、子育て中なので、なかなか参加できずにいました。今回はベビーカーの参加も OK ということでしたので、思い切って参加しました。とても楽しくてますますハマりそうです。

40 代男性：東京在住ですが、車だと意外と近いので参加しました。車いすで参加できるのは良いですね。外に出るきっかけになりました。私もリーダーの方のように野鳥に詳しくなりたいです。

■まとめ

1 時間のバードウォッチングは、気軽に楽しめて、初めての方には鳥の種類も時間も丁度良かったようです。終了後の反省会では、お試し入会の割合をさらに増やすことに向けた話がありました。

参加者の中には、ベビーカーの方や車いすの方も数名いらっしゃいました。1 月の探鳥会リーダーズフォーラムでは、幅広い方たちに探鳥会に参加してもらうことが話題となっていましたが、今回のような舗装されて移動が少ない場所での開催は、バリアフリーな探鳥会としても機能するのだと実感しました。

（普及室／堀本理華）

◆諏訪支部からの情報 「落鳥の命を教材に活かす！ 前編」

昨年末に諏訪支部がおこなったビギナーズ探鳥会の際、水鳥の生態説明に持参した教材が、本部からお出でになった箱田敦只氏の目にとまり、「指導者の皆さんに参考になるから・・」と投稿依頼を受けました。そこで手持ちの資料が少しでもお役に立つのであればと一部をご紹介いたします。

■鳥の死体を教材に生かす

ご紹介するのは、落ちた鳥の部位を活かした教材です。そもそものきっかけは、40 年も前、通勤の車から目撃したキジバトの死体でした。「かわいそうに！」と思うだけで、車両の激しさに見過ごすほかはなく、その夕方に見た現場は路面に羽毛が貼り付く無残な光景でした。

それ以来私は出来る限り回収を心掛けました。一番の思いは「無駄死にをさせないこと」。失われた命を別の形で発信できないものかと考えたのが教材利用の始まりです。

■胃の内容物を取り出す

死体が保護鳥などの場合は県地方事務所の鳥獣保護担当に連絡し利用許可を受けます。

その後、私は簡単に殺菌消毒をしたあと体内に残された餌の確認から始めます。多くはガラス窓、車、電線に衝突した突発的な事故死であるため、直前に採った餌はそのまま体内に残されています。その内容物を細かな網目の器に入れ、水を入れたバケツの中で羽を使って静かにかき回して消化物を洗い流し、残った固形物を半乾き（乾くと原型や色彩が失われる）にして餌を仕分け、記録、撮影します。方眼紙に昆虫、木の実など内容別に整然と並べるため、この写真を見た人に不快さを与えることはありません。この教材だけでもその鳥が事故前に、どんな環境で一生けんめい生きていたのかを伝えられます。

▲図１ シメの餌、木の種子とみられる

■嘴を生かす

まず嘴の利用ですが、上嘴と下嘴を羽毛は付けないで長めに切除して乾かし、上下の噛み合わせが可動できるよう厚紙を使いボンドで接合させます。その厚紙は画廊で入手。額縁のなかに挟む厚手のマット紙が使いやすく、これは端材なので無料で頂けます。これを嘴の大きさに切り分け使うと良いでしょう。

▲図２ 上下が動くよう作った嘴の教材

中でも特長的な嘴をもつ魚食性のカワアイサやカワウ。また水辺で茎や葉を引きちぎって水を排して食べる機能をもつハクチョウやマガモなどの嘴は、観察会の現場では一気に注目を集めます。参加者への説明は手に触れる際の注意点のみ、優れた機能は参加者が「ためしてガッテン！」と言ったところでしょうか。すごい機能性をもったカワアイサは、嘴の上下の合わさり目が奥に向けた角度で鋸刃状になっています、危険性はないので指を差し入れ体験してもらってはどうでしょう。魚がもがく程に奥へ奥へと引き込まれ、決して逃れられない素晴らしい構造を知ることができます。その点カワウは注意が必要で、嘴の縁はカミソリ刃のようで危険です。一概に魚を捕食する鳥といっても多様な構造の嘴があることに驚かされます。

山野の鳥も同様です、小鳥のシメなどは嘴の内部に驚くべき構造のあることに気付きました。体に比べ大きな嘴をもつシメは堅い種子を嘴の縁だけで割って食べると認識していたのですが、実は嘴の奥に補助具があり上嘴には左右一列に、下嘴には左右二つの突起があり、ここを使って堅い実を叩き壊していたのです。早春に雑木林で児童を案内していたとき、かすかにパチン、パチンと実を割るシメの食事音、さっそく教材を取り出し見せたところ、みんな目を丸くして熱心に聞き入っていました。

＊次号に続く

（諏訪支部／林正敏）

◆遠江からの情報　「春の入会キャンペーンの取組み」

昨年の中部ブロック会議で、日本野鳥の会遠江が報告した「春の入会キャンペーン」を紹介します。

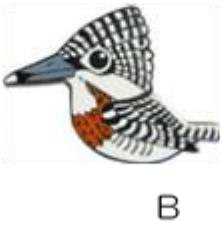
■狙い

会員の長期低落傾向をくい止めることが狙いです。2016 年に、期間を 3 月～5 月末に絞り、「春の入会キャンペーン」を実施しました。

■手段

春の入会キャンペーンとは、期間中に入会してくださった方に、以下のA、B、Cからご希望の１つをプレゼントするというものです。このキャンペーンを会報、支部 HP、各探鳥会などで紹介しました。

A 遠江の鳥 バードウォッチングガイド
「静岡県西部の身近な探鳥地」
＊日本野鳥の会遠江編集
B 野鳥ピンバッジ（ヤマセミ、カワセミ、フクロウ、キビタキ、オオタカなど）
C野鳥ファースナーマスコット（カワセミ、スズメ、シジュウカラなど）

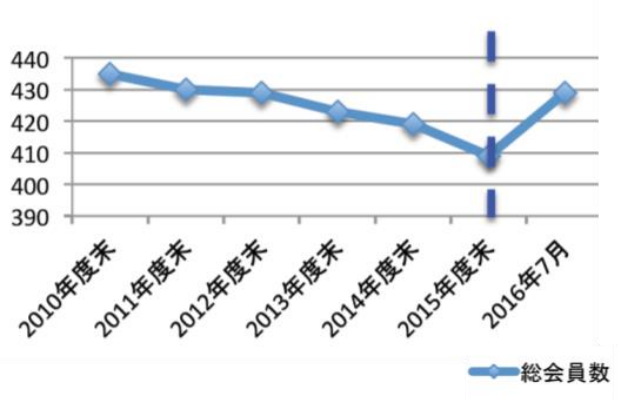


ここ数年、誰でも無料で申込みなしで参加できる探鳥会を実施しており、探鳥会に会員以外のリピーター参加者が多くいることが分かっていました。そのリピーター参加者をメインターゲットとしました。入会プレゼントを設定することで、探鳥会での会話のキッカケにでき、参加者の入会への気持ちを押すことができると考えました。

また、新たに「初心者向け探鳥会」など企画探鳥会も実施しました。企画探鳥会をメディアや支部 HP などで広報することで、広く一般参加者を集めました。5/22 に開催した初心者向け探鳥会には、参加者が 66 名集まり、その内非会員は 36 名、新入会希望者は６名ありました。

■結果

キャンペーンを実施した３ヶ月の間に、２７名（内家族会員７名）が入会しました。低落傾向に歯止めがかかったといえます。なお経費は約 8,000 円でした。



▲会員数の推移

■今後の展望

2017 年も 3 月～6 月で同様のキャンペーンを実施します。

参加しやすい探鳥会の雰囲気づくりや無料探鳥会を継続し、企画探鳥会もさらに充実していきたいと思います。分かりやすい入門者用、遠江限定の野鳥資料なども充実していきたいです。

（日本野鳥の会遠江代表／増田裕）

◆探鳥会保険集計結果（2017 年 1 月分）

1 月は 68 支部からご報告をいただき、計 260 回の探鳥会が開催され、のべ 6,069 人が参加されました。

表 2. 1 月の探鳥会保険集計結果（2017 年 2 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	20	0	1	21
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	2	7	4	4	15
十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	3	121	40	10	171
小樽支部	2	9	9	3	21
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	8	0	3	11
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	8	16	3	27
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	24	3	3	30
秋田県支部	3	37	2	3	42
山形県支部	2	23	9	7	39
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	0	0	0	0	0
北上支部	1	12	2	2	16
宮城県支部	5	79	24	11	114
ふくしま	1	26	0	2	28
郡山支部	2	34	0	5	39
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	1	1	0	6	7
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	12	102	65	19	186
栃木	−	−	−	−	−
群馬	7	73	43	27	143
吾妻	0	0	0	0	0
埼玉	17	353	99	114	566
千葉県	10	152	41	39	232
東京	15	534	10	73	617
奥多摩支部	15	173	46	58	277
神奈川支部	16	258	70	53	381
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	29	15	2	46
石川	2	30	16	6	52
福井県	2	3	0	7	10
長野支部	2	38	6	4	48
軽井沢支部	1	7	0	1	8
諏訪支部	2	14	29	4	47
木曽支部	1	8	2	2	12
伊那谷支部	-	-	-	-	-
甲府支部	2	42	17	4	63
富士山麓支部	1	8	0	3	11
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	1	7	0	2	9
南富士支部	2	60	8	3	71
南伊豆	1	7	0	2	9
静岡支部	2	15	8	6	29
遠江	5	110	61	28	199
愛知県支部	12	139	85	29	253
岐阜	-	-	-	-	-
三重	4	36	7	7	50
奈良支部	4	102	21	8	131
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	39	64	8	111
京都支部	8	183	37	19	239
大阪支部	20	289	96	91	476
ひょうご	7	103	72	24	199
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	21	7	1	29
島根県支部	2	19	3	2	24
岡山県支部	4	80	25	10	115
広島県支部	5	52	30	17	99
山口県支部	6	47	42	10	99
香川県支部	2	47	4	2	53
徳島県支部	5	54	5	5	64
高知支部	2	7	5	2	14
愛媛	5	72	32	7	111
北九州	4	32	8	4	44
福岡支部	4	55	12	9	76
筑豊支部	1	8	0	1	9
筑後支部	3	26	8	4	38
佐賀県支部	4	50	13	5	68
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	3	44	17	4	65
大分県支部	1	20	20	2	42
宮崎県支部	1	5	0	1	6
鹿児島	2	24	26	7	57
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	-	-	-	-	-
全国	260	3,986	1,284	799	6,069

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■2016 年度　探鳥会リーダーズフォーラム西日本　報告書（概要版）■

昨年の 10/29-30 に探鳥会リーダーズフォーラム西日本を神戸で開催しました。初の関西開催でしたが、これまで参加されていなかった方や支部のみなさんに参加していただき、分科会のテーマの幅も広くなりまた新たな一歩を踏み出せたと思っております。

今回は「概要版」としてご報告いたしますが、「詳細版」の報告書をご希望の方は「詳細版希望」と明記の上、tancho-staff@wbsj.org までご連絡ください。（参加者の方には別途お送りいたします。）

＜日　時＞ 2016 年 10 月 29 日(土)13:30
～30 日（日）12:00
＜主　催＞ （公財）日本野鳥の会　普及室
＜旅行実施＞ （株）南海国際旅行
＜会　場＞ 六甲山 YMCA（兵庫県神戸市）
＜参 加 者＞ 29 名
＜参加支部＞ 東京、遠江、滋賀、京都、奈良、大阪、ひょうご、岡山県、香川県、徳島県、佐賀県
＜スタッフ＞ 12 名
＜スケジュール＞
29 日 13:30 オリエンテーション
13:45 基調講演 上田恵介氏（副会長）
15:00 アイスブレイキング
16:00 分科会 A（120 分）
18:30 夕食
19:30 懇親会
30 日 7:00　早朝探鳥会（有志）
7:45　朝食
8:45　分科会 B（90 分）
10:30　クロージング
12:00　終了

◆分科会◆

① 『インターネットの広報活用術入門』
【企画者】渡辺／岡山県
【参加者】10 名（5 支部）
【内　容】

非会員対象の探鳥会を展開する中で、インターネットを使った広報媒体が不可欠となってきている。しかし、ホームページ、ブログ、ツィッター、フェイスブックなど様々なものがあり、使い分けが難しい。

そこでこの分科会では、財団でホームページ管理を担当している三浦から、ホームページとフェイスブックについてのレクチャーと、岡山県支部の渡辺さんから、これまで支部で様々なインターネットメディアを立ち上げて運用を模索してきた経緯をお話しいただいた。その後全体での議論をする中で、次のような課題が浮かび上がってきた。

1） 鳥情報の扱いについて
⇒ 鳥情報の掲載についてどのようなガイドラインがあるのか？
2） 支部報とホームページの違いについて
⇒ WEB と支部報の位置づけをどう考えるか？
3） 支部のページと個人のページ
⇒ 支部の公式ページと個人のページの位置づけ。
4） 使いやすいホームページソフト
⇒ おすすめのホームページソフトを紹介してほしい。
5） 継続性の問題
⇒ 担当者が交代しても継続できる体制とは？

最後に、こうした課題を相互にサポートする場としてメーリングリストの立ち上げも提案された。

② 『広がれ！若者向け探鳥会。
手さぐりから始めませんか？』
【企画者】寺田／京都、阪口,田阪,西田／奈良、駒田／大阪
【参加者】17 名（9 支部）

【内　容】
　1997 年に神奈川で始まったヤング探鳥会も、現在では全国７支部で開催されている。今回は奈良支部が開催に至った経緯をベテラン幹事の阪口さんにお話ししていただいた。
　きっかけは、2014 年度の総会の場で支部の高齢化が話題になったこと。その後、若い会員の人に声をかけ座談会をやろうという企画が持ち上がり、支部報の編集部企画で「ヤングバーダー座談会」が開催された。そこで、ヤング探鳥会の企画が持ち上がり、ベテラン幹事のサポートの末、2015 年に開催にこぎつけた。
※　阪口さんのお話を DVD にまとめました。ご希望の方は「奈良支部の事例 DVD 希望」と明記し、住所、氏名、電話番号をメールでお送りください。
（tancho-staff@wbsj.org）

　奈良支部の事例を受けて、全員で「ヤング探鳥会開催の意義」「どうしたら集客できるか？」「若い人にリーダーになってもらうためには？」「ベテランリーダーの役割」などについて議論した。

③　『あったらいいな。バードウォッチング商品開発ワークショップ』
【企画者】生田／財団普及室
【参加者】６名（３支部）
【内　容】
　財団普及室の販売出版グループでは、バードウォッチング用品の開発と販売を通じてその普及に努めている。アイディアの源泉にあるのは、探鳥会の現場そのものだ。そこでこの分科会では、バードウォッチング商品のアイディアを話し合うことで、商品の制作と販売という切り口からバードウォッチングの普及を考えてみた。
　冒頭に生田から、現在人気商品となっている「バードウォッチング長靴」「アウトドアグローブ」「鳴き声タッチペン」「クビラック」「マスキングテープ」「野鳥トランプ」「鳥の家紋を集めた手ぬぐい」「フィールドガイド日本の野鳥」「山野水辺の鳥」「鳴き声ガイド」について商品開発の経緯についてレクチャーした。中には、商品がヒットしバードウォッチングをしない人にも商品を購入してもらい、商品を通じてバードウォッチングの要素が広がっている事例も見られた。
　その後は全体の中で、どのような新しい商品のアイディアがあるか話し合い、48 のアイディアが集まった。

④　『野鳥をテーマに子どもたちの心に伝わる環境学習のスキルを身につけよう！』
【企画者】紀田、丸谷／ひょうご
【参加者】18 名（７支部）
【内　容】
　小学校や幼稚園等での環境学習を想定し、一人のリーダーで 100 人の児童に野鳥の不思議や自然のつながりを伝えるには、どんな工夫が必要なのかを考えて工夫してみようという分科会。
　具体的には、既存のネイチャーゲームを、野鳥をテーマとしたプログラムに応用して作り替えてプログラムを考案してみた。その中で、以下のようなアイディアが生まれた。

１）「鳥をテーマにしたビンゴゲーム」
　今の季節、野外で確認することができる観察項目をビンゴシートに盛り込む。
２）「鳥へのインタビュー」
　植物や生き物に聞いてみたいことをリストアップし、答えを想像して書き出すプログラム。
３）「ヨシゴイになる訓練」
　気に入った場所で、じっと動かず周りの自然に溶け込み、自然で起きることを観察する。

４）「鳥になる訓練」
　鳥の名前やイラストが書かれたカードを引いてもらい、その鳥になりきって餌を探す。

⑤　『探鳥会で人材をリクルート』
【企画者】西村、寺田／京都
【参加者】９名（４支部）
【内　容】
　「会員を増やすために、非会員を対象とした探鳥会を実施しましょう。」と掛け声をかけても、リーダーの数が少ない支部にとっては、通常の活動だけで手いっぱいなのが実情だ。新しい活動を起こすためには人手が必要になる。
　この分科会では、こうした人員の悩みを抱えた京都支部の取り組みを紹介した。京都支部では、平日探鳥会を開催し、そこに集まってくる常連参加者に声をかけて新しいリーダーを増やし、その方たちの応援によって「会員を増やすための探鳥会」を開催してきた事例を紹介していただいた。
　そのあとの議論では、リーダーをスカウトするために、「いつ」「だれを」「どんな言葉で」誘ったらよいのか具体的な場面を想定しながら全員で議論した。その中で、「リーダーとして誘いたい人は、鳥に詳しい人とは限らない。」「若者や女性に声をかけてみる」「子どもへの声掛け」「探鳥会ではリーダーの他にスカウトマンをおく。」など様々な視点の意見がでてきた。
　今回の分科会では、主に「どのように声をかけるのか」が大きなテーマとなったが、声をかけた後、どのように育てていくのかという視点も重要だ。継続して議論していきたいテーマだった。

⑥　『街がフィールド！ツバメをテーマとしたプログラムを考えよう』
【企画者】荒／財団自然保護室、堀本／普及室
【参加者】５名（３支部）
【内　容】
　ツバメは、人家の軒下で繁殖し河川敷で大規模なねぐらをつくる。また東南アジアとの間を行き来する渡り鳥でもある。もっとも人の目につく身近な鳥でありながら、その生活史は時間的空間的にグローバルな広がりを持つツバメ。最近では、特に都市部において巣が落とされるなど受難が続き、全体としても減少が心配され、メディアも大きく扱うようになってきている。
　ところが会員の関心は低くむしろ一般の会員ではない方からの関心が高い傾向がある。普及室では、支部にもっとツバメに関心を持っていただくことで、会員ではない一般の方との接点が生まれるのではないかと考え、この分科会では、普及室で行ってきたツバメの子育て観察会やねぐら入り観察会の様子を報告し、今後支部の中でツバメを取り入れていく可能性について議論した。
　まず、各支部の取り組みの状況を共有した。大阪、京都など近畿圏では、以前からツバメのねぐら入り観察会やねぐらの調査が毎年行われており、ほぼねぐらの場所も明らかになっている。
　岡山では、鳥が出ない８月は探鳥会を行っていなかったが４～５年前からねぐら入り観察会を実施するようになり、やはり会員外の人の参加が多いとのことだった。地元のスーパーが巣を落としていたので、支部で文書を出して申し入れをする様子を見て、一般の方から賛同をいただくこともあった。
　他にも、ツバメにやさしい商店街の例や離島との定期船の中で営巣していた例、ツバメにやさしい駅など多くの事例を共有する中で、ツバメが非会員との接点になりやすい鳥であることを確認しあった。

◆まとめ◆
　３年目となる今回のリーダーズフォーラムでは、いくつか新たなことを試みてみました。
　一つ目は、はじめて西日本で開催したということ。そのかいあって５支部から新たな参加が

あり、合計 11 支部での開催となりました。これでまた、日本野鳥の会の探鳥会の将来を考える輪がさらに広がったことを実感しました。

二つ目は、冒頭に上田副会長の基調講演をお願いしたこと。しかも、タイトルを「出会いと学びの場としての探鳥会」として、先生ご自身の少年時代の探鳥会経験をひも解いてお話していただきました。おそらく今までとは勝手の違うテーマで、無理なお願いをしてしまったのではないかと心苦しくもありましたが、おかげさまで参加者の皆さんにご自分が初心者の頃を思い出していただく効果があり、その後の分科会へのよい導入になったと思います。

また、内容面においては、昨年までは様々な種類の探鳥会の事例紹介が中心でしたが、今回は「インターネット活用」や「人材リクルート」など、地味だが活動を持続していくための運営ノウハウの視点が取り上げられたことは大きな前進だと思います。これらについては今後も継続して話し合っていきたいと思います。

そして「若者向け探鳥会」「子ども向け探鳥会」など、従来から話し合われてきたテーマについても、これまでとは違った角度からアプローチしていただき、内容にはより膨らみが出てきたように思います。

今後も、リーダーズフォーラムの開催場所や内容に工夫を加えながらより多くのリーダーの皆さんに参加していただき、一緒に日本野鳥の会の探鳥会活動を作っていく場を用意していきたいと思います。

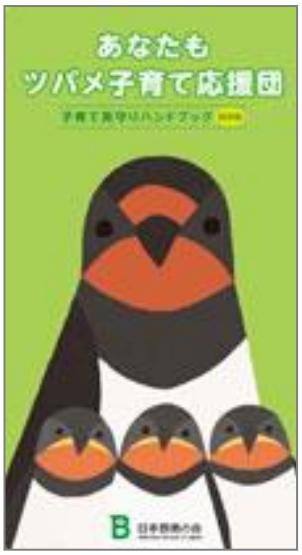
（普及室／箱田敦只）

■ツバメの子育て観察会をしませんか■

今年もツバメが渡ってくる季節がやってきました。この春、支部でツバメの子育て観察会や学習会などを企画されませんか。

民家の軒先などで子育てをするツバメは、一般の方からの注目度が高く、普及室にも毎年ツバメに関する問い合わせが多く届きます。

財団では、ツバメの生態や減少についてまとめたパワーポイントのスライドを提供することができます。（参照：2016 年 6 月号 http://www.wbsj.org/info/shibu/tancho/staff201606.pdf）またツバメの子育てを見守るノウハウを載せた小冊子「あなたもツバメ子育て応援団」も制作しております。ご要望がありましたら、tancho-staff@wbsj.org までご連絡ください。

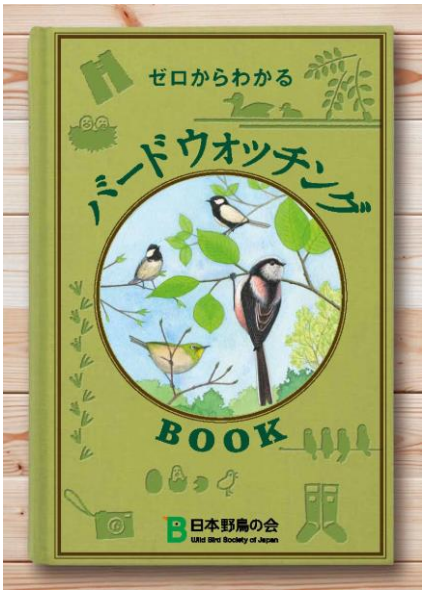


■新小冊子『バードウォッチング BOOK』を発行します■

普及室では、バードウォッチングに興味を持つきっかけとなるような小冊子を制作していますが、この度そのひとつである『バードウォッチング手帖』をフルモデルチェンジしました。

『バードウォッチング手帖』は、３月いっぱいで配布を終了し、４月からは新しい小冊子『ゼロからわかる　バードウォッチング BOOK』に変わります。新しい小冊子では、これからバードウォッチングを始めようとする方に向けて、道具や服装、野鳥の見つけ方や双眼鏡の使い方などを紹介しています。

なお、既に設置されている「バードウォッチング手帖プレゼントハガキ」を通じてお申込みがあった方には、『バードウォッチング手帖』（在庫限り）と『バードウォッチング BOOK』をお届けいたします。「バードウォッチング BOOK プレゼントハガキ」も 4 月中旬に完成いたしますので、ぜひご利用ください。



▲表紙

▲見開きページ

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇鳥たちは何してる？

１月に開催された探鳥会リーダーズフォーラム東日本で、「野鳥の行動観察から環境保全を目指す探鳥会」というテーマの分科会があったそうです。私は、野鳥の楽しみ方は幅広く紹介したほうがよいとの考えから、かねてより行動の観察もお勧めしてしてきました。野鳥誌の連載「ひなこのお散歩鳥講座」では、1998 年８月号で「何してる？ウォッチング」、2001 年９・10 月号で「場面や状況を見分ける」と題して書いています。

種の識別が中心の探鳥会では、識別できる人が識別できない人に教えるという一方通行になりがちです。また、珍しくない鳥や簡単に見分けられる鳥はよく見ないという傾向も生じやすいと思われます。行動の観察では、「何してますか？」と問いかけることで主体的な観察を促しやすいし、ベテラン・初心者の区別なくその場その時の話題として一緒に観察したり、考えたりもできるし、身近な鳥や何度も見る鳥でも対象にすることができます。

高野による『フィールドガイド日本の野鳥』の評価の一つ、識別図鑑にとどまらないという点でも、種ごとの習性や行動を識別ポイントとして位置づけて解説しています。行動の図版も多く、仲間を識別するのに役立つガン・カモ・ハクチョウ類の採食姿勢、シギ類の広げた翼や下面を示すためののびや飛び立ちなどの行動、オオヨシキリ・コヨシキリのさえずっているところ、ビンズイ・オオセッカではさえずり飛翔、キクイタダキの飛翔採食など、枚挙に暇がありません。ヤマセミでは、雌の下雨覆の色を示すのにホバリングを描いているなど、心憎いと思いませんか？

◇鳥は吸えない？鳥は大食い？

1982 年に『フィールドガイド日本の野鳥』初版が発行された後、初心者向け図鑑として 1998 年に『新・山野の鳥』を担当することになった私は、身近な鳥から紹介しました。最初をスズメにしたら、「教科書的に基礎を押し付けても興味を引けないのではないか？」という声があったので、求愛、交尾、砂浴、頭かきなど、高野から教わったおもしろい行動の例を図版で加えました（識別でも興味を引くように幼鳥、改定版ではイエスズメも加えた）。

高野没後の 2007 年、『フィールドガイド日本の野鳥』増補改定版を担当することになり、「行動の見分け方」というコーナー（新版では P346）を新設した背景にも、高野の教え、「図鑑は読むもの」「基礎が大事」「行動もおもしろい」などがあります。飲水と採食では、鳥や人や自然を理解する上で大切なことにも触れたつもりなので抜粋せていただきます。

・・・哺乳類は乳を吸うために吸い込む能力を発達させたが、鳥類は水を飲むには上を向いて流し込む必要がある・・・（以後、例外のハト類やツバメなどの飲み方を解説）

・・・飛ぶには軽い体を保たねばならず、頻繁に食べては糞をする。高栄養の動物質を食べるものが多く、小鳥では虫をつまみやすい、細長いくちばしが一般的。虫が少ない季節には木

の実も食べるが丸飲みするので、種子は糞で出され、植物の散布に貢献する。・・・（以後、例外のタネ食について、種ごと、季節ごとに「何を食べるか？」「どうやって食べるか？」に違いがあることなどを解説）

◇クビキン雌の目は黒い？

新版の２刷りの前に、『新・水辺の鳥』改定版で４刷を用意しなくてはならなくなりました。『フィールドガイド日本の野鳥』と全長が違う種について、数字を揃える努力をしていることは以前書きましたが、カモ類など検討が追いついていないものがあります。高野は全長をできるだけ簡単に記すことを心がけて数字を選んでいましたが、私は『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』で雌雄差が大きい種では雌雄それぞれの平均的な数値を記載したので、初心者向け図鑑のほうが詳しい部分が生じたままになっています。

ここでは、４刷りで『フィールドガイド日本の野鳥』新版の記載と合わせる例を書いておきましょう。オオハシシギは『新・水辺の鳥』改定版３刷までは「まれ」と記してきました。が、2016 年 4 月に書いたように新版では頻度マークを記載したので、「多くない」と直します。

また、クビワキンクロで「雌では目が黒い」となっていた黒を、新版に揃えて暗色にします。遠目には黒っぽく見えますが、アップの写真も掲載される昨今となったし、高野は最初から暗色と書いていました。また、改めて高野の図版を虫眼鏡でよく見てみたら、黒い瞳と黒くない虹彩が正確に描かれていました。

（普及室／安西英明）

▲増補改訂版で「行動の見分け方」を新設した際に谷口高司さんに描いていただいたシジュウカラの求愛給餌。春先に雌が雛のような声を出していれば、このような場面が見られるはず。

※この連載は、探鳥会スタッフ通信では紙面刷新のため、今回で終了させていただきます。今後は支部ネット通信で継続されますので、ご了解のほど、お願い申し上げます。

◆今月の購読者

探鳥会スタッフ通信３月号の電子メール版の購読者数は、先月より２名増えて 869 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３. 探鳥会スタッフ通信３月号電子メール版の購読者数（2017 年３月 14 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪支部	5
十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	4
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	2
函館支部	0	遠江	12
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	5	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	27
宮城県支部	39	ひょうご	18
ふくしま	4	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	10
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	13
茨城県	21	北九州	12
栃木	54	福岡支部	11
群馬	25	筑豊支部	21
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	39	佐賀県支部	5
千葉県	21	長崎県支部	1
東京	61	熊本県支部	14
奥多摩支部	47	大分県支部	4
神奈川支部	21	宮崎県支部	4
新潟県	2	鹿児島	3
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	869

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の無料配信について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも受信できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

いよいよ「会員を増やすための探鳥会」も熊本県支部の１回を残すのみとなりました。来月号でご報告も締めとなります。続いて５月のバードウィーク「全国一斉探鳥会」の広報準備が進んでいます。今年は去年よりさらに多くの情報をお寄せいただき、嬉しい悲鳴をあげながら「探鳥会のご案内」を作成しております。来月号で見本をお届けする予定です。

２月末ウグイスの初鳴きを聞き、日々賑やかになるさえずりに「春だなー」と感じています。春は色々と変化の季節でもあり、本誌も来月号より編集担当が変わります。

新しい担当に変わり、新装「探鳥会スタッフ通信」を引き続きご愛読の程、宜しくお願い致します。丸２年間どうもありがとうございました。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第48号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2017年3月16日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org